

1401 地震・火山災害の関連史資料に基づく低頻度大規模災害の調査  
担当者 佐竹健治 (satake@eri.u-tokyo.ac.jp)

・実施機関（代表機関）名

東京大学地震研究所，東京大学史料編纂所

・研究目的

日本全国の主要な史資料保存機関で収集・所蔵されている歴史資料を調査し，主に地震・火山噴火や災害に関連する前近代の史料を収集して翻刻（活字化）を行う。特に，江戸時代における日記史料を重点的に調査して，有感地震に関する記録を収集する。収集・翻刻した新規の地震・火山噴火災害関連史料については，時系列順・地域別に整理してデータベースを構築する。このデータベースを活用して，歴史時代における地震活動について時期的・地域的な特性を分析し，近代的な観測データとの統合を目指す。

また，既存の地震・火山噴火災害関連史料のうち，近代的な観測データとの比較・検討が可能な信憑性の高い史料については，原本調査と校訂（原本・原史料による本文の訂正）作業を実施して信頼できる史料本文を作成し，時系列順・地域別に整理してデータベースを構築する。

さらに，このデータベースに収められた史料本文の記述内容を詳細に分析・検討して，歴史時代における被害地震の被害分布図・震度分布図，津波高分布図，火山噴火災害地図などを作成する。これらを用いることによって，現行の強震動予測地図や地域防災地図の高度化に資するだけでなく，防災教育の教材としても役立てることを目指す。

地質調査における津波堆積物の報告書等を調査して津波堆積物に関する内容を収集し，時系列順・地域別に整理してデータベースを構築する。このデータベースを活用して，歴史時代だけでなく先史時代も含めた津波堆積物についての時期的・地域的な特性を分析し，津波の浸水（到達）範囲について検討する。なお，津波堆積物に関する地質データのうち，近代的な観測データとの比較・検討が可能な事例については，評価方法を検討して観測データとの統合を目指す。

また，このデータベースに収められた津波堆積物のデータを分析・検討して，歴史時代だけでなく先史時代も含めた津波浸水（到達）図を作成する。これを用いることによって，現行の地域防災地図の高度化に資するだけでなく，防災教育の教材としても役立てることを目指す。

歴史資料，考古関連資料，地質関連資料などを用いて，過去に発生した低頻度大規模地震の被害分布や震度分布，津波到達（浸水）域などについて分析する。これらの分析結果と近代的な観測データとを比較・検討して，過去の大規模地震・津波といった低頻度の現象を解明する。

また，強震動予測や津波シミュレーションなどの手法を用いて，過去に発生した大規模地震・津波の分析を行い，低頻度大規模地震に関する強震動・津波の発生予測などの検討に資することを目指す。特に，首都直下地震の発生が懸念される関東地方，南海トラフ沿いでの海溝型巨大地震の発生が懸念される東海・南海地方を研究の対象地域とする。